

学生からのメッセージ

芸術祭を行って感じたこと

石井 凜々香

福岡看護大学 第3学年

こんにちは、福岡看護大学で総務委員長をさせていただいています石井凜々香です。

芸術祭を初めて行うということで、学生部長である中島先生を含め学友会顧問である先生方・学年委員長・芸術サークルの方と「学生が主体となり楽しんでもらう」をテーマのもと芸術祭の運営を計画しました。芸術祭を行うにあたり一番悩んだことは、先生方を含め全学年の生徒が楽しんでくれるかということでした。そのためたくさん学年委員長と相談を行い、イベント内容の企画からスケジュールの管理等を行いました。迎えた当日は不安から始まりましたが、たくさんさんの笑顔を見ることができ最後には参加してくれた方々から「芸術祭、すごく楽しかった」と言ってもらえて良かったです。芸術祭を振り返って感じることは、行事の運営の難しさと先生方をはじめ同級生・先輩・後輩の協力のありがたさです。また次の芸術祭では昨年度以上に満足していただけでもできるように努力致します。最後にコロナ禍での芸術祭の実施をさせていただきます、本当にありがとうございます。



保護者からのメッセージ

夢に向かって

岡田 正明

新型コロナウイルスも5月には2類相当から5類への見直しが決まり、だんだんとウィズコロナに向かつて、一人ひとりが自ら考えて行動し、問題を解決し前向きに生活していくことが必要となってきたようです。学生の皆さんは、夢を持って入学して来られたと思いますが、休校やオンライン授業、部活動その他の中止など、思ったような学生生活は送れてこれなかったことでしょうか、少し先が見えてきたと感じておられるのではないのでしょうか。



私は、大きな夢をつかむためには、それまでに小さな夢を少しずつ達成していき、最終的に大きな夢へとつなげていくことが重要だと思っています。

この執筆時にちょうどWBC一次ラウンドが開催されており、日本チームの活躍、特に、ヌートバー選手のひたむきで真摯な行動、態度に賞賛の声があがっています。彼も小さな夢を達成することを積み重ね、大きな夢を手に入れました。そして、今後もっと大きな夢へと挑戦し続けることでしょう。皆さんにも是非何事にも全力で取り組んで、その先の大きな夢を手に入れて欲しいと願っております。大丈夫です。追いかけて続ける勇気さえあれば、夢は必ず叶います。

New Sophia コラム

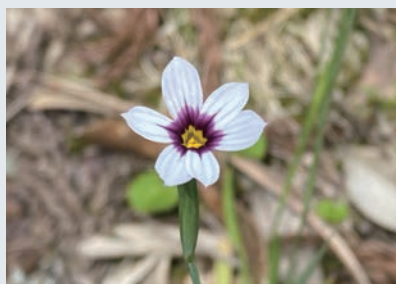
庭石菖

中学3年生の4月下旬。クラス替えを経てようやくみんなの様子が変わってきた頃の放課後、クラスのマドンナの存在の女の子と何かの拍子に百人首の話をした。「好きな歌はどれ？」と聞かれて返答に戸惑っていると、「私はこれ」と教えてくれたのが「逢ひ見ての後の心にくらげれば」。深い意味はなかったと思うが、忘れられない。

5月にはそのマドンナと校庭の草取りで一緒になった。小さな花を指して、この花は好きだから抜けないという。それが「ワゼキシウ」(庭石菖 *Sisyrinchium rosulatum*)。5〜6月頃に草地に群生して薄紅色の小さな花を咲かせるアヤメ科の年草。スックと伸びた茎の先端の輪の可憐な花が、姿勢のよい彼女の姿に重なった。

マドンナは違う高校に進学し、その後会うこともなかったが、今でも「ワゼキシウを見ると彼女のことを思い出す。そして、カルタ取りでは「昔はものを思はざりけり」を最初に探してしまう。」

(内藤 徹)



編集後記

木々の緑が日に日に鮮やかになってきました。学園も新年度がスタートし、キャンパスではフレッシュな顔ぶれが新たなスタートを切りました。本号では卒業・修了式や、4年ぶりにコロナ禍前と同じように保護者やご家族の出席が認められた入学式の様子とともに、種々の話題を掲載しています。ゆっくりとお楽しみいただければ幸いです。